

クラウドサービスの電力量を収集し 業界で初のCFPマーク取得に

エネルギー効率指標の仕様にも柔軟に対応

IT機器の種別毎電力量の収集が必要に

クラウドサービスのIT機器のエネルギー効率を精緻に算出するためには、データセンター全体のエネルギー指標ではなく、将来的には機器単位の収集が必要となっていました。

簡易性・柔軟性とサポート力が決め手に

展示会でiDCNaviを拝見し、エネルギー効率指標の仕様が固まっていない中、ユーザ要求に柔軟に対応できるソフトウェアだと認識しました。また、既設のセンターに後付で対応可能な手軽さも評価しました。また、計測機器の設置から指標算出に至るまで、ソフトウェアに係るシステム全体に対する提案力/サポート力を感じ、採択しました。

クラウドサービスのエネルギー効率 生産性の把握を実現

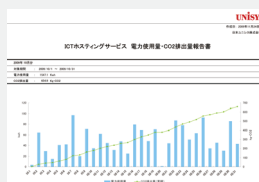
iDCNAVIを導入した「消費電力基盤システム」の構築により、「顧客別消費電力表示」「カーボンフットプリント認証マーク取得」などのサービスを提供し、当社クラウドサービスの環境アピールを実現。業界でのイニシアティブを確保できました。

顧客別消費電力表示では、クラウドサービスを利

用しているお客様に月ごとの消費電力量を開示することで、環境を意識した対応を促すことが可能となりました。

2010年3月29日には、経済産業省および関連省庁の推進するカーボンフットプリント(Carbon Footprint of Products、以下 CFP)マーク使用許諾サービスに認定されました。このCFPマーク使用許諾は、情報処理サービス産業およびサービス商品において初となります。

● 日本ユニシスの電力マネジメント基盤システム

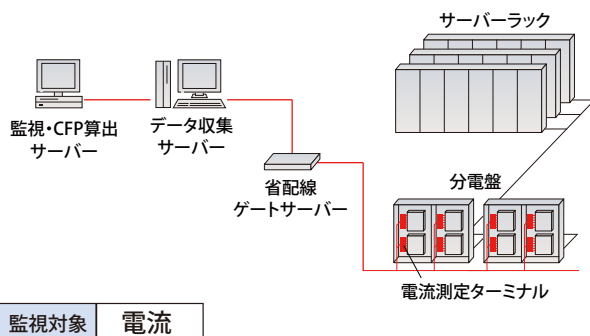


ICTホスティングサービスのユーザーに向けて、電力使用量、CO2排出量レポートが提供されている。

今後は分散している環境データの 一元化を目指す

現在は、各データセンターがそれぞれ環境データの収集を行っています。それらを一拠点で、一元管理することで、より環境負荷の少ないICTサービスの実現を目指しています。

● システム構築



稼働中のデータセンターでシステムを止めることなく、導入を行う必要がありました。分電盤にクランプを取り付け、電流の計測を行っています。計測データはデータ収集サーバーで吸い上げた後、監視・CFP算出サーバーに送られ、日本ユニシスの「消費電力基盤システム」で使用されます。

User Profile

UNISYS

コンピュータ黎明期である1958年に創立した日本ユニシスグループは、時代のニーズにいち早く応じたITサービスを常に提供し、日本のITを支え続けてきたソリューションプロバイダーです。

日本ユニシス様のICTホスティングサービスU-Cloud IaaSは、堅牢なネットワーク、柔軟なサーバーリソース、安全な運用など、関連する全てのサービスが、必要な時に必要な分だけ提供される、企業向け「エンタープライズクラウド」に特化したサービスです。情報処理サービス業で初のカーボンフットプリントマークを取得するなど、グリーンICTへの取り組みにも力を入れています。

今回導入したシステム

iDCNavi

データセンター環境監視システム

データセンターの温度・電流などを計測・監視するシステムです。多点の計測データを一括でリアルタイムに監視することで、異常の早期発見、原因特定を行うことができます。

